

# 軽井沢の歴史を刻んだ人々



平成20年軽井沢会テニスコートでテニスをする天皇・皇后両陛下



昭和36年 結婚2年目、軽井沢に避暑に訪れた皇太子殿下と美智子妃

(写真提供: 土屋写真館)

## 昭和

### 皇太子殿下 テニスコートの恋実る

昭和2年、避暑客の軍、万平ホテル接収。昭和天皇大日方開発地のため臨時列車初運転、8月15日までに日本人6025・外人1480人。

昭和3年、朝香宮、千ヶ滝に皇室関係者で始めての別荘を建て。昭和8年財団法人南ヶ丘会18ホールの東洋一のゴルフ場を作る、会長徳川團順↓近衛文麻呂。人口8013人。軽井沢観光協会開設。昭和17年財団法人軽井沢会発足。

昭和22年、米進駐

昭和2年、避暑客の軍、万平ホテル接収。昭和天皇大日方開発地のため臨時列車初運転、8月15日までに日本人6025・外人1480人。

昭和3年、朝香宮、千ヶ滝に皇室関係者で始めての別荘を建て。昭和8年財団法人南ヶ丘会18ホールの東洋一のゴルフ場を作る、会長徳川團順↓近衛文麻呂。人口8013人。軽井沢観光協会開設。昭和17年財団法人軽井沢会発足。

昭和22年、米進駐

昭和27年、町内5ヶ所にスケートリンクを新設。スケートブームに火をつける。昭和28年5・17、浅間山および軽井沢周辺米軍演習地の設置反対運動県下全体に広がる。7・16、浅間山演習地使用正式に取り消し決定。昭和32年、皇太子殿下、軽井沢会会場のテニスコートで初めて正田美智子嬢に会う。

昭和33年、「軽井沢に1日に若者6万人も集まる。これが冬でも若者や家族連れが軽井沢に来るきっかけとなる。

昭和38年、千ヶ滝軽井沢スケートセンターで、「スピードスケート世界大会」開催。20ヶ国120名参加。別荘3000戸越す。塩沢テニス民宿4件。

昭和39年、東京オリンピック総合馬術大会が地蔵ヶ原一帯で開かれる。12ヶ国48人参加、ニユー星野が選手村に。

昭和43年、塩沢民宿組合結成23戸、テニスコート70面に。昭和43年、第一回水祭り開催。3万5千人が参加。

昭和47年、「軽井沢自然保護対策要綱」告示。レイクニュータウンで、連合赤軍事件起こる。ゴルフ場急増。

昭和48年、観光客50万人超す。昭和49年、ペンション第一号開設、開設「軽井沢野鳥の森開園」。

昭和53年、第33回国民体育大会冬季大会「やまびこ国体」スケート協議会開催。

## 大正

### 温泉旅館建てた星野嘉助 別荘開発の草分け野沢源一郎

大正2年、2代目星野嘉助は、湯川に軽井沢ではじめての温泉浴場と旅館を建てる。

大正4年、転地療養別荘主には大熊重信総理・加藤高明・後藤俊長・野沢源一郎は、そ

大正4年、転地療養別荘主には大熊重信総理・加藤高明・後藤俊長・野沢源一郎は、その後、雲場池を作り、現在の不動産分譲事業の草分けとも言える別荘経営と土地分譲を始める。交番を置き東京の一流商店やクリーニング・床屋まで呼んで別荘生活の便を図る。別荘主には大熊重信総理・加藤高明・後藤俊長・野沢源一郎は、そのほか水泳プール、野球グラウンド等もつく

大正7年、大隈重信の書生をしていた早稲田大学の学生・堤康次郎は、大隈重信の助言で、野沢源一郎が大正時代開いた六本辻別荘500戸を越す。

大正11年、軽井沢集會場建設、講習会・音楽会・映画会・展覧会などが開催される現在の文化都市軽井沢の基盤が形成される。



大正末期の旧軽通り。左の建物が当時の郵便局



南軽井沢にある超大型の国際コース-72ゴルフコース

### 大隈重信の助言で 堤康次郎が千ヶ滝開発

う。病弱ながら、野沢は愛する軽井沢保養で94歳まで長生きする。

大正5年、「軽井沢避暑団」が設立され、軽井沢の町政にも参画、明治29年に決めた「飲む、打つ、買う禁止」を再確認。「会員は品行方正にして節操の人たるを要す」とし、「軽井沢に來住するもの心身鍛錬向上と文化教養の寄与される」を掲げ、聖地・軽井沢の基盤ができる。

大正7年、大隈重信の書生をしていた早稲田大学の学生・堤康次郎は、大隈重信の助言で、野沢源一郎が大正時代開いた六本辻別荘500戸を越す。

大正11年、軽井沢集會場建設、講習会・音楽会・映画会・展覧会などが開催される現在の文化都市軽井沢の基盤が形成される。

### 夏季大学も始まる



大正7年、大隈重信の書生をしていた早稲田大学の学生・堤康次郎は、大隈重信の助言で、野沢源一郎が大正時代開いた六本辻別荘500戸を越す。

大正11年、軽井沢集會場建設、講習会・音楽会・映画会・展覧会などが開催される現在の文化都市軽井沢の基盤が形成される。

10年、星野温泉で芸術自由講習会開催される。内村鑑三・島崎藤村・北原白秋・広田竜太郎・山元鼎など、そうたるメンバー集まる。その後の与謝野晶子・若山牧水・室生犀星・堀辰雄・津村信夫・有島武郎・川端康成など軽井沢に住んだり、愛した文人達を呼び込む源となる。

大正11年、軽井沢集會場建設、講習会・音楽会・映画会・展覧会などが開催される現在の文化都市軽井沢の基盤が形成される。

### 「東京オリンピックピック」の「馬術競技」会場に